

韓国環境部プレスリリース【2019-10-17 付け】

以下、機械翻訳などによる仮訳

京畿道漣川郡旺澄面の民統線内で発見されたイノシシへい死体からアフリカ豚コレラウイルス検出(7例目(DMZ 内での発見を含む))

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?boardMasterId=1&boardId=1065550&menuId=286>

【本文】

環境部所属の国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は 10 月 16 日、京畿道漣川郡旺澄面江西里の民統線内で発見されたイノシシへい死体からアフリカ豚コレラウイルスが検出されたと発表した。

10 月 16 日午前 10 時頃、民統線内の感染地域のイノシシの移動を遮断するため、電気柵設置作業中、国立生物資源館職員や軍人が発見し、漣川郡に申告したへい死体でアフリカ豚コレラウイルスが検出された。

今回(ウイルスが)検出されたへい死体が発見された地域は、10 月 12 日、漣川で初めてウイルスが検出された旺澄面江西里(986 番地)から 80 メートル余り離れた場所である。漣川郡は試料採取後、軍部隊の協力を得て、標準行動指針によって死体を埋めた後、試料を科学院に移送した。

※試料採取やへい死体の埋却後の作業者の消毒、周辺の防疫作業実施

チョン・ウォンファ国立環境科学院・生物安全研究チーム長は「今回検出された地点は、従来の検出地点と隣接し、感染地域に対し遮断施設(電気柵など)が 10 月 17 日に終わる予定である」とし「該当地域を含めた危険地域(約 30 平方メートル)を設定して遮断施設を早期に設置する予定だ」と述べた。

京畿道坡州市長湍面の民統線内で発見されたイノシシへい死体でアフリカ豚コレラウイルス検出(8例目(DMZ 内での発見を含む))

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?boardMasterId=1&boardId=1065560&menuId=286>

【本文】

環境部所属の国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は10月16日、京畿道坡州市長湍面巨谷里の民統線内で発見されたイノシシへい死体からアフリカ豚コレラウイルスが検出されたと発表した。

10月16日午前11時頃、民統線内で農民がへい死体を発見し、坡州市に申告し、坡州市は現場を確認して科学院に申告後、標準行動指針によって死体を埋却後、試料を移送した。

※試料採取やへい死体の埋却後の作業者の消毒、周辺の防疫作業実施

坡州市は今年1月から計12個体のへい死体申告があり、民統線内で報告されたのは4個体でこのうち今回申告されたへい死体からウイルスが初めて検出された。

チョン・ウォンファ国立環境科学院・生物安全研究チーム長は「江原道鉄原と漣川地域以外で検出されたのは初めてだ」として、「感染地域に対し遮断施設(電気柵など)を早期に設置して長湍面に入る2つの橋梁や漣川につながる道路に対する消毒・防疫措置を強化しよう軍と自治体に要請した」と述べた。

(以上)